

～ 豊かな学びの実現 ～

グローバルGAP認証取得のブドウ 台湾へ輸出

台湾に輸出するシャインマスカットを荷造りする丹原高生ら



丹原高生のブドウ輸出

国際規格認証今年も台湾に

50キログラム箱詰め現地販売へ

農産物の生産工程管理に関する国際規格「グローバルGAP」の認証をブドウで取得している丹原高校(西条市丹原町願連寺)が今月中旬、自校の農園で丹精したシャインマスカットとニューピオーネを台湾で販売する。生徒が現地販売などに取り組む研修も4年ぶりに再開する。

同校は2018年、ブドウの輸出と台中市の高級スーパー「裕毛屋」での販売実習を開始。20年以降は新型コロナウイルスの影響で生徒は渡航できなかったが、今年は普通科、園芸科科学科の2、3年生6人が現地入りし、販売や工場でのインターンシップに臨む。4日は販売用のブドウの梱包(こんぼう)作業を行い、園芸科学科果樹班や台湾研修参加者の生徒計14人が約50キログラムを箱詰めした。生徒らは、スーパーが指定した梱包方法を確認し、1房ごとに重さを量ったり特殊な袋や緩衝材で包んだりして丁寧に並べた。今年5月ごろの高温期から色や糖度の乗りが悪く、梅雨時期には実が割れるなどしたが、梅雨明け以降ようやく安定して成長し、出荷に間に合ったという。

梱包したブドウは神奈川県倉庫に運ばれた後、航空便で台湾に輸出。20日に裕毛屋の店頭で販売する。台湾実習に参加する園芸科3年菅野星空さん(17)は「お客さんに声をかけ、たくさん買ってもらえるように頑張る。研修を通じ、他国の人とのコミュニケーションを学んできた」と話した。(高橋圭太)

台湾研修が4年ぶりに再開。19～23日の5日間、6名の生徒が参加。高級スーパー裕毛屋での販売プロモーション活動、インターンシップ、台湾の高校生との交流など盛りだくさんの内容です。